

1年生のみなさん、入学おめでとうございます。小松高校がそびえ立つここ養正が丘に春の風が吹き、みなさんを温かく迎えてくれています。みなさんの高校3年間の実り多きものとなるよう、しっかりとしたビジョンを持ち、勉強や部活動に励み、充実した毎日を送ってほしいと思います。在校生の皆さんも学年が一つ上がり、緊張と期待の中、よいスタートが踏めたのではないかと思います。新しい友だちや先生との出会いはありましたか。本校の図書室においても、多くの書籍とのすばらしい出会いがあることを願っています。今年度の開館は4月21日を予定しています。1年生の帯出カードも準備OKです。まずは、本校の図書室に来て下さい。そして、



本校の図書室紹介

- 第3教棟の4階にあります。
- 蔵書冊数は約2万4000冊あります。
- 開館は開校日の昼休みと放課後。放課後は1時間の開館です。
- 貸出期間は2週間。1回につき2冊まで借りることができます。
- 室内では飲食は禁止です。
- 手洗い、手指消毒、マスク、感染対策をお願いします。
- 新聞2紙（朝日新聞、愛媛新聞）と「すてきにハンドメイド」「今日の料理」「ダ・ビンチ」を定期購読しています。
- 本を借りる場合は必ず帯出カードに内容を記入し、帯出カードを図書委員に渡してください。



4月の読書関係行事

☆ 国際こどもの本の日 4月2日

こどもの本を通して国際理解を深める日です。1967年、国際児童図書館評議会が、デンマークの童話作家アンデルセンの誕生日にちなんで制定しました。

☆ 世界本の日・子ども読書の日 4月23日

☆ こども読書週間 4月23日～5月12日



子どもたちにもっと本を！との願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）にはじまりました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間でしたが、2000年より、世界本の日・子ども読書の日にあたる4月23日～5月12日になりました。開始当時より、図書館・書店・学校を中心に、子どもたちに本を手渡すさまざまな行事が行われてきました。幼少のときから子どもが書物に親しむことで、読書の喜びや楽しみを知ることができます。また、読書を通して、想像力を高めたり、ものごとを正しく判断する力を身に付けたりすることができます。読書が子どもたちにとってどんなに大切なことか…。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。

no image

「らいぶらり」 図書館利用の手引き 2022

「らいぶらり」は図書館利用の学習の時に新入生に配布されます。読書の意義や本の選び方、図書館の役割と利用についてなどが記されており、読書を楽しむのに役立つ冊子です。推薦図書やコンクールで受賞した読書感想文や感想画、読書の記録ページもあります。よく読んで、活用してください。また、読書感想画を紹介するカラーページには、本校3年生の八木晴誠さん(最優秀)、2年生の十亀美沙紀さん(優秀)、昨年度卒業の西原康生さん(優秀)の作品が紹介されています。図書館に置いてありますので、2、3年生の皆さんも見てください。



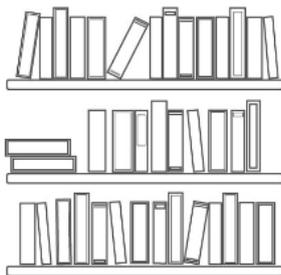
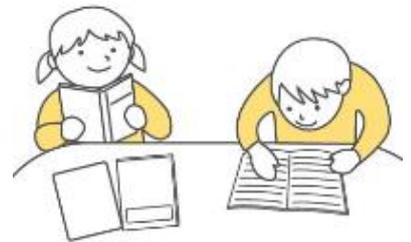
愛媛県高等学校教育研究会図書部会

朝の読書について

今年度より、年間を通して朝の読書を行うことになりました。朝8時40分から5分間ですが、積み重ねると一ヶ月で約100分、読書ができます。みなさんが読書に親しむ機会を増やすことと、1日のスタートに落ち着いた静寂な時間を作ることが目的です。1学期は4月25日から始まります。クラスのみんなで協力して、良い時間にしましょう。

☆お願い☆ 自分で本を準備しましょう。(漫画、雑誌はだめです)

私語や宿題はしないようにしましょう。



LIBRARY

みんなのリレー本棚設置

今年度より、職員室前にみんなのリレー本棚を設置しました。リレー本棚にある本は先生方や先輩方、皆さんの友達が寄付して下さった大切な本です。自分が興味関心を持った本は、持ち帰っても構いませんが、後日で良いので、代替りの本を寄付して下さい。持ち帰った本を返してもらっても構いません。寄付する本は、高校生が読むのにふさわしい本をお願いします。利用について相談がある人は、研修図書課の伊藤、田所、新居田まで申し出て下さい。

私の愛読書

今年度、本校に新しく赴任された先生方から、愛読書を紹介していただきます。

☆☆ 園部孝行教頭先生より ☆☆ 手紙屋 喜多川 泰 著

著者の講演会に参加し、著者と直接対話ができる機会に恵まれたことがきっかけで著者の作品を全て読破しました。その中の一作品です。勇気を与えてくれる作品です。

就職活動中の男子大学生が、手紙屋と10通限定の文通を始めて、成長していく話です。手紙屋との文通を通して、これまで見ようとしなかった世界観を知っていき、新たな道を拓いていく大学生の姿があります。また、社会人として働く人にも響く言葉が、所々に描かれています。実際に働いている時は、目の前のことしか頭にないことが多いけれど、疲れた時や辛い時など少し引いて、何のために働くのかを考えると、そこから一歩前に踏み出せることができるかもしれないということを教えてくれます。壁を乗り越えたい人、何かを目指している人にとっても、何か糸口がみつけれられるのではないかと思います。

no image